

児童発達支援及び放課後等デイサービス自己評価表

日時 2020年 3月 31日

事業所名:リバティキッズ

	チェック項目	対応状況
環境・ 体制整備	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	<ul style="list-style-type: none"> ・個別療育の部屋と集団療育の部屋を確保しています。レイアウトを工夫するなど対応しておりますが広さは不十分です。賃貸物件のため面積を広げることは難しいですが、1Fの療育状況を映像端末を利用して、2Fにて保護者の皆様にご覧いただくなどの対応をしています。 ・賃貸物件のため、建物全般のバリアフリー化は行えておりません。 ・職員に関しては適切な数は配置しています。保育士や教員免許所持者、臨床心理士など専門職員を配置しています。 ・日々の清掃や教材の消毒を行い、換気の徹底などを行い感染症予防を行っています。
	職員の配置数や専門性は適切であるか	
	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	
	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	
業務改善	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で話し合いを持ち、問題点への改善方法などを話し合って解決しています。 ・自己評価表の結果は職員で共有しています。 ・自己評価表の結果は弊社ホームページに掲載されています。 ・支援スキル、療育スキル、保育スキル、権利擁護などの研修を行っています。
	保護者等向け自己評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	
	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の「質」の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	
	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	
	職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか	
適切な支援の提供	アセスメントを適切に行い、子供と保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士のミーティングでは、その子に応じた課題や目標、注意点を共有し、セッション後の振り返りでは、データを基に発達の状況、課題の達成度をスタッフ全体で共有しています。 ・連続性のある課題をおこなっているため、同じことをしていると感じられる保護者の方もいらっしゃるため、今まで以上に課題の狙いなどの説明を行っています。 ・同席している保護者と綿密に話し合いを行っており、セッション中やご家庭での向き合い方の参考としています。 ・個別療育を主としている関係上、交流は少なくなってしまう。 ・子供たち自身での気づきをうながし、自ら進んで学ぶことで達成感を得られるように工夫しています。 ・ご希望の方には新版K式発達検査、K-ABC、Vineland-II、PARS、KIDS、WISC-Vを実施しております。
	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	
	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的支援内容が設定されているか	
	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	
	活動プログラムの立案をチームで行っているか	
	活動プログラムが固定化しないように工夫している	
	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成しているか	
	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	
	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	
	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	
定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか		

関係機関や保護者との連携	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	
	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	
	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	
	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	
	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	・担当者会議等は、児発管をはじめその子に一番精通している職員が参加しています。
	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	・関係各所(幼稚園、認定こども園など)とは連携して支援しています。
	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	・重症心身障害児の受け入れ実績はありません。
	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	
	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	
	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	
保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)を行っているか		
保護者への説明責任等	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	
	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容とこれに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	・契約時に公的サービスについての各種説明を行っています。ただし、初めの一回だけでは忘れてしまうこともあるので、定期的に確認をすることにいたしました。
	定期的に、保護者からの子育ての悩みに対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	・保護者が同席しているので、その都度発達課題を共有しています。
	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	・ペアレントトレーニングも毎回行っています。できる限りその場でアドバイスしていますが、希望の保護者には適宜面談、自宅への訪問も行っています。
	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子供や保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	・ご自宅以外にも幼稚園(保育園)にもお伺いしてコンサルテーションも行っています。
	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	・個人情報は細心の注意を払っております。
	個人情報の取扱いに十分注意しているか	・保護者会を行っています。開催の時間を変えるなど対策をして保護者への参加をいっそう呼びかけていきます。
	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	
	事業所の行事に地域住民を招待する等地域い開かれた事業運営を図っているか	
	非常時等の対応	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している
非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか		
事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか		・ヒヤリハットは全職員で共有しています。
食物アレルギーのある子どもについて、意思の指示書に基づく対応がされているか		・持病、アレルギー情報などはしっかりと管理、対応しています。
ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		・避難訓練も実施しています。
虐待防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか		・虐待防止研修も定期的に行っております。
どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか		